

令和7年度 結集！しまねの子育て協働プロジェクト事業 地域と学校の連携・協働体制構築についての課題及び目標の達成状況について

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、 令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の数値	単 位	本年度の 目標値
放課後子ども教室において は、地域人材の不足等により、 多様な体験活動の場を十分に 創出できていない教室も見受 けられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の確保に向けた取組 ・他教室の地域人材活用 ・他教室との連携した取組 ・休日(土日等)を利用した活動 ・担当者同士の連携強化 	<p>前年度の反省を踏まえ、外部人材の活用や民間企業との連携により、新たな体験活動の創出につながった教室もあった。一方で、協働活動サポーターの辞退者が増加したことから、担当者の負担が増し、体験活動を実施できていない教室も見受けられた。</p> <p>そのような場合でも、他教室との合同開催を行うことで人数不足を補うとともに、教室間での児童交流といった新たな連携の取組にもつながっている。他教室との交流については、今後も継続して実施するとともに、地域人材確保に向けた周知活動等を進めていく。</p>	<p>多様な体験活動を通じて地域の「ひと・もの・こと」を効果的に活用し、子どもの成長と郷土愛が育まれるとともに、地域住民の自己有用感が高まり、地域力の向上につながる状態を実現する。</p>	<p>自由遊び(体育館や空き教室を使った子ども主体の遊び)以外の体験活動を、年間10回以上実施できている教室の割合。</p>	18	%	60